

重点取組分野	平成28年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
確かな学力	①全学級で「学習スタンダード」を意識した授業展開を図るとともに、少人数指導やTT指導・教科分担制を取り入れ、児童の理解と意欲を高め、基礎・基本の定着を目指す。②日課表にスキルタイムを取り入れ、読み・書き・計算等、学習の基礎的・基本的な知識や技能の習熟を図る。	①学習スタンダードを意識しつつ、効果的に少人数指導やTT指導を行うことで個に応じた指導ができた。また教科分担制指導を取り入れることで、指導力が向上した。②スキルタイムを活用し、継続的に指導することで、基礎基本が習熟してきた。今後はその基礎基本を活用し、思考力や表現力等を育成する必要がある。	B
豊かな心	①幼保小中の連携交流・校内異学年交流や道徳の時間等の充実、自ら進んであいさつする姿を認め、あいさつ運動を積極的に行う。②音楽朝会・芸術鑑賞会・和楽器体験・茶道体験・国際理解教室・読書活動(読書タイムや保護者や地域の方による読み聞かせ、豊かな心を育てる。	①交流を通して、相手意識をもち、優しい気持ちで他者と接する態度が育った。多くの児童はあいさつの大切さを理解しているが、進んであいさつするまでには至っていない。年長者に対する接し方も含め、道徳の時間等をより充実させ、引き続き指導していく。②様々な活動を通して、児童の感性を刺激し、豊かな心の育成につなげることができた。	B
健やかな体	①家庭と連携し、よりよい食のとり方や「早寝・早起き・朝ごはん」など基本的な生活習慣の定着と体力の向上、食育を図ります。②「いきいきタイム」や「さわやかスポーツ」を通して日常的に体力向上を図る。③年2回の学校保健委員会を開催し、子どもたちが健康な生活を送ることができるように、保護者や地域及び関係機関との連携を図る。	①食育に力をいれたことで、給食ではマナーの向上が見られた。生活習慣が不規則で、遅刻したり、朝食を食べなかつたりする児童も見られるので、さらに家庭と連携し、改善していきたい。②学級や委員会の工夫により、遊びを通して体を動かす習慣が身についた。③関係機関と連携し、今年度は歯の健康についての意識を高めることができた。	B
特別支援教育	①一般級と個別支援学級の連携強化に向けて合同打合せを積極的に行う。②療育センターの学校支援担当者によるコンサルテーションを積極的に行い、児童一人ひとりに応じた教育の推進を図る。③個別支援学級や国際教室について交流を通じて理解を深め、互いに尊重し、共に生きる姿勢を育む。④個別支援学級の環境整備を行うとともに、ユニバーサルデザイン教育について理解する。	①個別支援学級と交流学年の指導者が連携を密にし、児童に合った指導を行うことができた。②コンサルテーションは個に応じた支援について考える手がかりとなり、即時、児童にフィードバックできることもあった。③特別支援コーディネーターを中心に、毎月の協議、報告会を通して、児童理解を深めることができていた。④個別支援学級の人数増加に配慮した学習環境づくりを進めている。	B
児童・生徒指導	①児童指導に関する情報の共有化、規範意識を育む指導の取組、「子どもの社会的スキル横浜プログラム」「構成的エンカウンター」等を取り入れて人間関係づくりの指導の工夫を図る。②「並一スタンダード」「非行予防プログラム」による共通指導を進める。③職員会議内に児童理解の内容を定例化し、児童の状況を共通理解する。	①児童支援専任を中心に学年の枠を超え、児童一人ひとりのニーズに合った支援ができてきている。児童が学校や地域の人々とよりよい人間関係を築くことができるように、今後も社会的スキルの育成に努める。②「並一スタンダード」の設定により、全職員が指導観を共有することができた。③職員会議における情報交換や、生活アンケートの定期的な実施により、児童が抱える問題の早期発見・解決につなげる	B
地域連携	①幼保小連携・2中3小連携(あいさつ運動)・小高連携(金沢総合高校生による夏休みの学習支援ボランティア)・金沢養護学校との交流を積極的に行う。②学習ボランティアとして保護者や地域の方の協力をいただき、児童の安心感や達成感、学習意欲を高める。	①発達段階に応じ、意図的・計画的に異校種交流を推進することができた。特に、2中3小の連携は、異校種や他校の現状を知るうえで効果的であった。また、富岡東中学校との授業体験・部活体験は、6年生が中学進学に向け、気持ちの準備を始めるのに役立った。②多くのボランティアや地域の方に触れることにより、児童は学習意欲の高まりと同時に、多くの人に支えられていることに気づき、豊かな心を育むこと	A
教育課程	①言語活動の充実を意図し、読書活動を重点化する。②体験活動を重視した教育活動の充実を図る。③学年内における教科担任制・少人数指導・TT指導等、多様な指導を実施する。④「いきいきタイム」や「さわやかスポーツ」「なわとび」等を通して、健康な体を育む。	①図書ボランティアや図書委員による啓発活動等により、読書への興味関心が高まった。②体験的な活動を取り入れた授業を工夫することで、児童は学習意欲を高めながら、生きた知識を身につけることができた。③学習形態を適時工夫することで、効果的な指導を行うことができた。また、指導者が学年の全児童と関わることで、児童理解を深めることができた。④楽しみながら体を動かせる時間と場所を保障することで、児童は適度な運動をしていた。	B
人材育成・組織運営	①メンターチームを5年次以下の教職員を中心に組織し、ミドルリーダーが講師となって月1回の活動を継続して行う。②情報機器を活用し、情報の共有化を図る。とともに、事務の簡便化、効率化を図る。③週に1回、教務会及び学年主任会を行い、ミドルリーダー、学校リーダーが全体を見通して学校運営していく場を設定する。	①メンターチームが機能し始めたことにより、有用感が増し、人材育成が着実に進められている。②事務の簡便化、効率化に向けて、業務内容の精選を進めている。③校長を中心とした教務会による学校運営方針の共通理解や、職員会議や研修による具体的な検討、様々な振り返りと定期的な見直しにより、学校教育目標の具現化を図る体制ができていた。	B
ブロック内相互評価後の気付き	○指導の重点の一つとして取り上げた「聴く力」については、今後も継続的に取り組んでいく。 ○小中合同研修会の話し合いでは「聴く力」をどのように身につけさせるかについて話し合い、「聴く力」が学力向上の一歩であることが確認できた。 ○小中互いの授業参観を行い、研究討議を重ねることで、児童生徒の実態、教員の接し方や指導法などについて理解を深めることができた。 ○実際に小学生が中学校で授業や部活動を体験することで、中一ギャップの軽減が期待される。		
学校関係者評価	○ボランティアで子どもに関わることで、子どもの成長を間近に見ることができた。地域でも学年を越えて子どもらしく過ごす姿が見られた。○今年度は、PTAとして学校で様々な取り組みをさせてもらい、子どもは大きく成長することができた。○地域での様子を見てみると並木第一小学校の子どもは、やわらかい雰囲気を持っており、とても良いと感じている。○公共機関の使い方、公共でのマナー等、他人を意識した行動がとれるようにしていきたい。家庭が基本だと思う。学校評価で「朝ごはんを食べているか」等の項目を入れることはできないだろうか。		
学校経営中期取組目標振り返り	○よりよい人間関係をつくるために、これまでの取組に引き続き、重点研究の「話し合い活動を取り入れた授業」や「幼保小中高や異学年交流」を通して、相手意識をもつことやコミュニケーション力などの育成を図ってきた。今後も豊かな人間関係の育成や表現力の育成に向けて努力したい。 ○児童指導や授業力などの教育技術は日々努力の必要がある。今後も、児童理解と共に学力向上に向けて指導力の向上を目指すとともに、教育課程の改訂に向けて計画的・段階的に研究・研修を進める。		